

第一分科会における検討の論点

平成11年10月6日

○文明論的視点

原子力の位置付けや在り方を議論するに当たり、人類文明の歴史的展開を踏まえ、現代社会が何を求め、どのような方向に向かうのかなどについて議論する。

〔キーワード〕

- ・大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会へ
- ・工業化社会から高度情報化社会へ
- ・少子高齢化に伴う経済社会の成熟化
- ・地球環境との調和と、持続的な経済成長の同時達成
- ・地球的視野の中での我が国に求められる役割
- ・新しい科学技術文明の創造
- ・現世代が享受する便益と後世代に残す資産、負債

○国民の信頼の確保

国民から信頼される原子力を目指して、政策決定の在り方等について議論する。

〔国民の不信感〕

- ・国民の信頼感醸成のための要件
(原子力の光と影を踏まえて現状とその形成要因の分析・評価)

〔政策決定の在り方〕

- ・政策に関する合意形成の在り方(目標とプロセス等)
- ・代議制民主主義の中での国民の意思表示の在り方

〔知識基盤の形成〕

- ・透明性の確保のための情報公開・説明責任の在り方
- ・分かりやすくタイムリーな情報提供の在り方
- ・青少年が自ら考え、判断を行うための教育の在り方
- ・マスメディアの役割と在り方

○安全と安心の確保

安全を国民の安心につなげていくという観点から、リスクの本質を分析・評価するとともに、平常時及び緊急時において、国民に対してリスクをどのように表現し、伝達していくべきかについて議論する。

〔社会学・心理学的観点〕

- ・リスクと便益の比較
- ・NIMBY現象（Not in My Backyard 現象）等も含めた原子力を取り巻く状況の社会学・心理学的分析
- ・安心感醸成における「人」の役割

〔リスク管理の在り方・リスクの表現手法〕

- ・安全確保の基本的考え方
（チェック機能の確保、異常発生に対する備え、安全性向上のための努力）
- ・リスク情報（確率論的安全評価等）の活用 of 意義と今後の方向性

○原子力と立地地域との共生

原子力施設の立地が地域の発展にどのように寄与し、立地地域が直面している課題にどう対応していくかについて議論する。

〔国、自治体、事業者の関係の在り方〕

- ・国、自治体、事業者が立地地域において果たす役割
- ・行政法的観点からの整理（地方分権の流れ、権限と責任の明確化）
- ・国全体としての課題と個別地域の事情との調和
- ・立地地域と消費地域の意識の格差の解消

〔長期的な地域の発展に向けて〕

- ・自立的な地域発展の在り方
- ・国と地方自治体の役割